

「探訪」裁判 12月17日に判決



約1年振りとなった第4回口頭弁論と報告集会には多くの支援者が参加し、裁判勝利に向けて団結ガンバローをおこなった＝9月10日、さいたま市の埼玉会館で

片岡委員長が意見陳述

休廷中に被告宮部退廷

「部落探訪」（＝曲輪クレスト）の削除を求めた訴訟の第4回口頭弁論が9月10日、さいたま地裁で開かれ、裁判長は審理の終了（結審）を宣言し、12月17日に判決を出す」と告げた。裁判には、傍聴券を求めて県内外から105人が詰めかけた。

この日の法廷では、被告・宮部龍彦が裁判の進行について裁判官を非難したため、裁判は紛糾した。被告は原告側（部落解放同盟）が提出の締め切りが過ぎた9月になって追加の準備書面を提出し、

裁判所がそれを受理したことを取り上げ、「解放同盟と裁判所はグルになっている」「裁判所のやり方は異常だ」「これは裁判じゃない。嫌がらせだ」などと暴言を吐いて非難した。

原告側の準備書面は、締め切り後の7月10日に東京法務局長が宮部に対して「説示」をおこなったこと、また8月から9月にかけて、被告がさいたま市、桶川市など4カ所の被差別部落の動画を「部落探訪」に投稿したためにその事実を指摘したもので、そもそも書面提出の締め切り後、それも結審の直前に動画「部落探訪」を投稿すること自体が許されない行為であり、それを棚に上げて、原告の書面提出を非難することは

身勝手な主張である。

裁判官は、締め切り後の書面提出であるが、全体の状況を踏まえて受理したという趣旨の説明をおこなったが被告は納得せず、暴言を続けた。そのため裁判長が「これ以上発言しないでください」と制止したが、被告がそれを無視して暴言を続けたため、裁判長が「いったん休憩します」「その間に（被告は）ご退席ください」と命じ、裁判官は一旦法廷から下がった。被告は「勝手にやれよ」などと捨て台詞を残して退席した。

その後、法廷が再開され、原告を代表して部落解放同盟県連の片岡明幸委員長が最後の意見陳述をおこなった。委員長は、①被告は、

「部落探訪」は単なる風景や街並みを撮影した写真や動画であり、「説示」を完全に無視しており、被告の行為は裁判所の判決や法務省の行政指導に対する挑戦である③「部落探訪」に対して、県内15市町の市長・町長などが法務局に削除要請をおこない、県議会や地方議会でも削除を求めたいと述べた。

用される②被告は、東京高裁の判決や法務省の「説示」を完全に無視しており、被告の行為は裁判所の判決や法務省の行政指導に対する挑戦である③「部落探訪」に対して、県内15市町の市長・町長などが法務局に削除要請をおこない、県議会や地方議会でも削除を求めたいと述べた。

める意見賞が採択されている。被告の行為は、削除を求める社会的な批判に対する挑戦である④原告の熊谷市の支部長および解放同盟県連は、被差別部落の住民を代表しており、「部落探訪」に掲載されているすべての差別情報を削除していただきたいと述べた。

山本道夫「肅々と裁判提訴する」

北足立議長

裁判終了後、埼玉会館で開かれた報告集会では、山本志都弁護士が裁判の状況を報告。新規に掲載された地域について「新たな裁判の準備を進めたい」と述べた。原告の池田三男・熊谷市協議長は「判決が出てから素直に削除するとは思えない。裁判に訴えず削除できる制度が必要だ」と述べた。連帯あいさつでは、神奈川県連の根本信一

委員長が、「宮部は川崎市長選挙に出馬する予定で、ヘイトスピーチ条例を撤廃すること」を公約に掲げている。宮部の主張は、そこに住む人を一掃すればいいというナチスの思想に通じるところがある。絶対許さない姿勢を見せた方がいい」と厳しく指摘した。また、大阪公立大学の阿久澤麻理子教授、県議会の井上航議員（無所属県

民会議）、田並尚明議員（民主フォーラム）も連帯のあいさつをおこなった。追加で投稿された、新たな裁判の準備を進めている解放同盟北足立郡市協議会の山本道夫議長は、「部落の暴露は若い人に対する差別を生む。反撃も必要で、肅々と次の裁判を提訴したい」と決意を述べた。